

射水市水戸田コミュニティセンター

◆事業の目的

- ・陶芸を通して土と触れ合い、児童クラブの親子や地域の絆を一層深める。また焼き物の工程を学び作品を作る楽しさを味わわせる。
- ・小杉丸山遺跡では、飛鳥時代に工人たちが集団で須恵器、北陸最古の瓦を焼きながら生活していた様子を学び、良質の土と燃料の薪の恩恵や自然との関わりについて考える。
- ・埋蔵文化センターでは、古代の生活を体験する。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月28日(土)	親子陶芸教室	匠の里	75名
8月21日(火)	小杉丸山遺跡、薪割り体験 勾玉作り	国指定小杉丸山遺跡、匠の里、 埋蔵文化財センター	30名

◆事業の様子

☆ ふれあい陶芸体験

「匠の里」の陶芸教室に親子で参加した。職員の方から焼き物について説明を聞き、作品を制作した。粘土を均一に板に延ばしヘラでいろいろな形に切り取り、思い思いの皿や入れ物を作った。親子でアイデアを出し合い、粘土を練って楽しく作品作りに取り組んでいたようである。出来上がりが楽しみという声があちこちで聞こえた。



☆ 遺跡について学ぶ

国指定史跡の小杉丸山遺跡では、射水市文化・スポーツ課職員に解説をしていただき、飛鳥時代に工人たちが集団で須恵器や瓦を焼きながら生活していた様子を学んだ。良質の土や薪が取れる地域であったことに、皆驚いていた。また年に1回赤松を燃料にして登窯に火を入れて作品を焼いていることも知った。



☆ 薪割り体験、樹木観察

匠の里で穴窯用の薪割り体験(油圧式で安全)をした。昔はヨキ(斧)で割っていたそうである。気温も高く暑い日で、作業も大変であった。匠の里では、赤松を燃料にして(1300℃以上)三昼夜交代で窯焼き作業をするそうである。また、自然に恵まれた付近の樹木について説明を聞き、観察をした。



☆ 勾玉作り体験

埋蔵文化財センターで職員の方から縄文時代の歴史と文化について話を聞いた。その後、勾玉作りや火おこしを体験した。子供達は真剣に勾玉を磨き、出来上がった作品に満足そうであった。また火おこしを体験し、先人の生活の苦労を感じたようである。



◆事業の成果と課題

水戸田コミュニティセンターと金山コミュニティセンターが連携し、互いの親子の交流を図った。陶芸体験や遺跡見学、薪割りや樹木観察、勾玉作りと色々な体験と見学を通し、古代の生活や文化に親子で触れあうよい機会となった。地域や親子の絆が希薄になっていく今、このような事業に積極的に参加することにより、ふるさとを見つめなおし、心豊かな子供達を育てていくことが必要である。